

説教「聖霊に依り頼む」

詩編 三一・六

エフェソ四・一七、二四

牧師 森田恭一郎

先週のペンテコステⅡ聖霊降臨日に続けて、今日も聖霊を巡る記事から学びます。『A・D・ヘールに学ぶ』の書物から、以前にも引用したかと思いますが、ヘール宣教師たちが日本語が上手ではなかったことを取り上げながらの記事です。弟のJ・B・ヘールの文章です。「他人に分からせる能力が全く欠けているということが、我々を却って、聖霊に全面的に依り頼むことへと追いやった」(四〇頁)。この記事は、聖霊に依り頼むことについて、信仰者なのだから、聖霊に依り頼むべきだ、とは語っていない。もちろん信仰者として聖霊に依り頼むのは当然のことですが、この記事はむしろ、聖霊に依り頼むことへと追いやった、と記しています。河内長野教会も無牧になると、みんな心ひとつにして真剣に祈った、と無牧を経験した時の方々が語っておられますが、聖霊の導きを求めて祈るといのは、実際のところ私たちも、追いやられてやつと真剣に祈るようになるということかもしれません。信仰深い宣教師の場合でさえ、日本語が上手くないことが彼らを「聖霊に全面的に依り頼むことに追いやった」訳です。

その結果起こった出来事は続く文章で以下の通りです。「やがて、生徒の心が真理を受け入れ始めたとき、その目や顔が輝くのは、教師にとつて、この世で与えられる最大の喜びの一

つである」。信仰教育における聖霊の導きを喜びと共に記しています。続けて「特に嬉しい事は、長い間かかって、人格的な愛にいまし、永遠にいます父なる神についての真理(中略)を生徒が掴んだときである。この真理が人の心を捕らえたとき、その人の全存在が如何に変化するかを見ることは、何者にも比べようのない喜びである」。

真理を掴んで生徒が変化する。生徒が変化するの、教えを受けた生徒の業というより、また教えた教師の業というより、聖霊の御業です。聖霊の御業は、永遠にいます父なる神についての真理を生徒が掴んだ出来事を引き起こします。ただここで心を留めたい事があります。「よについての真理」とありますがこれを注意したい。今日のエフェソ書に「キリストについて聞き」(エフェソ四・一二)とありますが、原文は「キリストを聞き」です。日本語としては何か座りが悪いので直してしまうのですが、キリストを聞く。キリストについて、というと、キリストについての説明になります。単なる知識としての説明を聞く以上のことが、聖霊の導きの中で起こります。

キリストを聞くということのエフェソ書は言い換えて続けます。キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるように学んだはずです。

後ろから言い直すと、真理を学ぶのは真理について学ぶのはるかに超えて、イエスの内にあるように真理を学ぶ、キリストに結ばれてキリストにあつて教えられて真理を学ぶ、キリストを聞き真理を学ぶ。

生徒の目や顔が輝くというのは、父なる神について、真理について学ぶことからだけでは起こらない。先ほどのJ・B・ヘールの文章、実はある箇所を飛ばして読みました。永遠にいます父なる神についての真理を、と記した後、書き加えています。書き直しています。そして私がその人格的な神と繋がっているという真理を。父なる神についての知識の説明に留まらない。教える者がその人格的の神と繋がっているという真理を、生徒が掴み、表情が変わる。両方とも聖霊の導きです。語る教師が神と繋がって生きている。生徒がその教師の姿に気付いて表情が変わる。両方とも聖霊の御業です。真理は、聖霊に依り頼み、導きが起る時、真理の出来事になります。

詩編の御言葉、真の神、主よ(詩編二・六)。

これは、真理の神、主よ、と書き直しても一向に構わない。その主なる神様に詩編記者は繋がっていく。絡みついていきます。御手に私の霊を委ねます。これは死ぬときだけのセリフではありません。生きていくような場面でも言って構わない言葉です。そして私を贖って下さい。詩編記者はこのように聖霊に依り頼んで祈りました。「まことのⅡ真理の神、主よ、私の霊を委ねます。私を贖って下さい」。この詩編記者の訴えを受けとめるようにして、主イエスが十字架で私たちを、その罪を御自分のものとして贖って下さった。それを、ただ向こうの方にある救いの知識として語るのではなく、自分が贖ってもらって神のものと生かされている、と自分との繋がりについて

祈り、語る。キリストと自分が繋がっている。エフエソ書の言葉でいると、神にかたどって作られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しい清い生活を送る(エフエソ四・二四)。正しい清い生活という、何だか道徳的に礼儀を守って生きているというイメージを持ちがちですが、ポイント、は、キリストに繋がって生きている姿です。

J・B・ヘールの言葉をもう一度。そして私がその人格的な神と繋がっているという真理を生徒が掴んだとき。教会学校で生徒に語るのも、間違ったことを語ってしまうのはもちろん良くありませんが、聖書の知識を正しく知っていることを説教するだけでは、生徒は変わらない。語る者がその真理に繋がって生きている姿を示せば良いのですよね。「私は自分の霊を委ねながら生きています。主イエスに贖ってもらって生きています」。自分が、聖書の言葉に包まれて、信者としてキリストに繋がって生きている姿を、子どもたちに見せればそれでいいでしょう。

皆さん、教会学校で説教してみませんか。今日も教会学校教師でない方が語って下さいました。信者として聖霊に依り頼んで生きているそのままで良いのですから、立派な自分を語るのではない、聖霊に依り頼んで生かされている。それを子どもたちに語りかけてみませんか。子どもたちはきっと表情が変わるでしょうし、説教を語るとなると、語る者も聖霊に依り頼むことに迫いやられて、表情が豊かに変わります。